

令和 7 年度 学校評価書 (実施段階)

福岡県立

朝倉光陽

高等学校

82

<p><b>スクール・ミッション</b> (本校の存在意義や社会的役割 目指すべき学校像)</p>	<p>社会性や思いやりの心を身に付け、地域を愛し地域を力強く支える人材を育成する学校 農業をはじめ実社会に通じる学びを活かして積極的に地域の活動に参加し、地域の活性化に寄与することを通して、実践力と豊かな人間性を備えた、人生をたくましく生き抜く人材を育成します。</p>	
<p><b>スクール・ポリシー</b> (三つの方針)</p>	<p>グラデュエーション・ポリシー (育成を目指す資質・能力に関する方針)</p>	<p>・志を高くもち、得意分野を身に付け、地域社会に貢献する人材を育成します。</p>
	<p>カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に関する方針)</p>	<p>・普通科及び食農科学科ともに多様な類型を設け、進路実現に向け徹底した個別指導を実施します。 ・実践力の育成と進路実現のため、様々な資格取得・検定へのチャレンジができます。 ・少人数による授業を取り入れ、多様な学習及び体験により個性を伸ばします。</p>
	<p>アドミッション・ポリシー (入学者の受け入れに関する方針)</p>	<p>「普通科」 進学・就職など目的意識が明確で、普通教科及び福祉・ビジネスの学習に興味・関心がある人 「食農科学科」 農業に関する専門的な知識を生かした進学・就職に意欲があり、食料生産技術や食品の製造・開発に関する学習に興味・関心がある人</p>

学校運営計画(4月)

学校運営方針			評価 (総合)
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
<p>生徒が自ら継続して学習に取り組む指導の</p>	<p>未来を拓く魅力ある学校づくりのためのカリキュラム・マネジメントの推進</p>	<p>①保護者・地域・関係機関等への積極的な情報発信を行い、地域に信頼される学校づくりを推進する。 ②各学科の類型の特色を踏まえた教育活動の充実を図る。 ③社会人基礎力の育成や子に応じた学力向上のための教育課程の見直しや指導方法(ICT機器など)の改善。</p>	<p>B</p>
	<p>生徒の主体性を高める生徒会活動の活性化</p>	<p>①学校行事の生徒主体運営 ②日田三隈高校との連携強化</p>	
	<p>地域連携の深化と広報活動の強化</p>	<p>①地域連携推進部を立ち上げ、ボランティア活動や販売実習、さらには広報活動を組織的・計画的に行う。 ②杷木小学校・杷木中学校との連携強化</p>	
	<p>キャリア教育の体系化と進路支援の充実</p>	<p>①3年間を見通したキャリア教育の確立 ②個に応じた学習の充実</p>	
	<p>多様性を尊重し、互いを理解し合える学校文化の醸成</p>	<p>①安心な学校環境づくりの推進 ②人権教育の充実 ③SST(ソーシャルスキルトレーニング)の実施</p>	
	<p>生徒の安全管理の徹底</p>	<p>①実験実習の安全教育の徹底 ②防災教育の充実 ③危機管理の体制強化</p>	
	<p>学校全体の意識改革と教職員の資質向上</p>	<p>①人権意識を高める職員研修会の実施 ②生徒指導の方針の共有と見直し ③授業力・指導力の向上</p>	

評価項目	具体的目標	自己評価				学校関係者評価								
		具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート(外部アンケート等)の結果等	評価(3月)		結果の考察と次年度の課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見						
教 務	基本的生活習慣と学習態度の確立	生徒の出欠状況を常に把握し、情報を各部署と共有することで生徒への素早い指導を確実に行う。	学校満足度調査「学校の授業」に「満足」28%、「まあ満足」64% 生徒授業評価アンケート	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒動態スプレッドシートを活用しての生徒の動態把握が定着し、不在生徒・遅刻生徒登校時の入力漏れもあまりない。また、必要に応じて感染症拡大期の出席停止など、新たな項目を設け、アップデートすることができた。</li> <li>・前年度からの、校務支援システム上で欠課時数が「警告」と表示された生徒への四者面談が仕組みとして定着し、警告表示後速やかに本人保護者と四者面談を実施することができた。</li> <li>・学校満足度調査で学校の授業に「満足」「まあ満足」と答えた生徒が9割を超えている一方で、補講対象者数や定期検査の内容・結果からは学習意欲の向上や、基礎的基本的な知識・技能の定着に疑問が感じられる。評価問題作りや授業・単元設計に関する研修を実施し、生徒学習意欲を引き出し、資質・能力を伸ばせる授業づくりを学校全体で進めたい。</li> </ul>								
		生徒の授業への取組状況を把握して適宜個別面談等を行い、授業への取組の改善を図る。		A										
		授業評価アンケートを行って授業内容の反省・改善を図り、生徒の授業満足度を高めることで、学習意欲の向上につなげる。		B										
	校務の確実な遂行と迅速化	各学年、各部、各教科に対して先を見通した提案を心がけ、連絡調整の円滑化、連携の強化、及び計画的な校務遂行に努める。また行事等に際しては職員アンケートを実施し、内容の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教務部アンケート</li> <li>・先を見越した提案「できていた」「概ねできていた」67%</li> <li>・明確な役割分担「できていた」「概ねできていた」67%</li> </ul>	B	B				<ul style="list-style-type: none"> <li>・先を見越した提案を概ね実施できていた一方、担当者間での業務の引継ぎや、年間を通した業務フローの不備から、提案が後手に回ることもあった。</li> <li>・年度が始まると、年度当初に作成した役割分担表にない業務も出てくる。あるいは、突発的な事態に対してその場にいる係が対処し、分担に関わらず解決していることもある。今年度の反省をまとめ、次年度の役割分担表に反映させたい。また、今誰がどのような業務を実施しているのか、可視化と横の協力を進めるために、教務部会を定期的に開催したい。</li> </ul>					
		役割分担を明確にして各自が責任を持って業務に取り組む体制を整え、1つ1つの業務に対して慎重かつ丁寧に業務を遂行する。	B											
	新教育課程への対応および統合型校務支援システムの効果的運用	新教育課程に対応した評価方法を確実に実行し、生徒の良いところを積極的に評価することで生徒の成長を促す。また各教科担当にさらなる授業の改善を求め、学校全体でよりよい授業づくりを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教務部アンケート</li> <li>・評価方法改善の働きかけ「できた」「概ねできた」33%</li> <li>・校務支援システムの効果的運用「できた」「おおむねできた」88%</li> </ul>	B	B							<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度から、定期検査問題がそれぞれの観点に沿って適切に作られているのか、回収担当者・教務主任によるダブルチェックを始めた。生徒の資質・能力をより伸ばせるように、知識・技能に偏らない評価問題の作成を各教科担当者に求めていきたい。</li> <li>・校務支援システムに精通したメンバーが増え、新たな視点から運営上の課題や登録ミスなどが分かるようになった。今後も、システムに習熟した担当者のノウハウを教務部で共有し、業務の偏りを減らしシステム運用力の向上を図りたい。</li> </ul>		
校務支援システムで行う業務の種類や作業の流れをマニュアル化することで、システム担当者の負担軽減と、運用できる職員の増加を図る。		A												
生徒指導	行事をはじめ普段の教育活動の中で、生徒会・各種委員会等の活動をさらに前進させ、自己肯定感や自己有用感を育み生徒の成長につなげる。	生徒会や有志による校門等でのあいさつ運動に取り組み、生徒会スローガンのもと、活気ある学校の雰囲気づくりを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育祭・文化祭満足度とても満足、まあ満足。87%</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会をはじめ、挨拶運動等、活動できているので次年度も継続していきたい。体育祭・光陽祭等の行事では、生徒が積極的に関わり成長がみられた。委員会でも積極的な活動が見られたので大変良かった。</li> <li>・今後、新しい生徒会を育成し、普段の活動や行事での全校生徒の成長につなげていく。</li> </ul>								
		生徒会・各種委員会の会議を定期的に開催し、各取組活動を推進していく。		B										
		学校行事では、生徒会を中心に企画・運営を实践させ、自ら前にでることによって成長を促す。		A										
	校則等の規定を生徒が自発的・主体的に取り組めるように改善していく。また、安心安全な学校を生徒と教員でつづけていく。	職員だけでなく、生徒会にも校則等について検討させ、生徒が自発的に取り組むような内容にしていく。各規定等で課題があれば生徒の成長につながるよう改善していく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒総会要望検討2件</li> <li>・いじめ等アンケート調査12回・保護者向けアンケート2回実施</li> </ul>	B	B				<ul style="list-style-type: none"> <li>・校則等についての要望について検討したので、就職の学校として実現できるか生徒会の考えも聞きながら見直しの判断をしていきたい。</li> <li>・規範意識については、講演会や集会を切っ掛けとして高めていきたい。</li> <li>・いじめ問題については、未然防止の観点、早期発見早期対応で組織的に取り組んでいく。</li> </ul>					
		各講演会等を通して、生徒の規範意識を向上させる。		B										
		いじめは絶対に許さないという態度のもと、未然防止とアンケート等を中心に早期発見・早期対応に努め組織的に対応し、安心安全な学校を目指す。		B										
生徒指導を通して生徒が光陽生として自律できるようにする。	登校指導や見守りのための巡回指導等を通して、身だしなみ等の指導をはじめ、生徒の状況等を共有し見守ることで、些細な変化を見逃さずに迅速に対応する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学期始め情報交換会3回</li> <li>・平日の登校指導の実施</li> <li>・授業での見守り巡回の実施</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登校指導をはじめ、授業での見守り活動を通して生徒の変化に気付き、教員間で生徒の情報共有のもと、生徒に関わっていくことで問題行動の未然防止等につなげていく。</li> </ul>									
	教員が生徒の情報を共有し、粘り強く生徒への指導にあたることで生徒の成長につなげる。		A											
	生徒指導部教員を中心として積極的に生徒に関わり、生徒を認めていくことで学校での居場所を作り、問題行動の未然防止と中途退学防止等に努める。		B											

進路指導	生徒・保護者の希望を叶える進路保障を目指す	定期的な進路希望調査を実施し、キャリア教育関連行事を通して、進路意識の向上や適切な職業観の育成を図る。	学校満足度アンケート結果において「とても思う・まあそう思う」が85%を超えている	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育に関する各行事について、予定通り実施することができた。効果も十分にしている。特に、今年度3年生の進路内定が出る早さは例年以上であった。計画的な指導や意識付けが結果となって現れた。</li> <li>また、今年度は国公立大学合格者が出ましたが、この生徒についても1年生の頃からクラス担任をはじめ、多くの先生方に指導助言を受け今回の結果に至りました。</li> <li>・進路希望調査や個別面談などを通して、生徒一人一人の希望を吸い上げながら、適切な情報提供、指導助言につなげていきたいと考えます。</li> </ul>		
		進路担当教員や進路支援コーディネーターからの「キャリア講話」を定期的に各学年ごとで実施し、より多くの進路関係情報を提供する。		A					
		面接試験対策指導や一般教養・SPI試験対策を適宜行い、生徒全員の希望進路実現をサポートする。		B					
	キャリア教育を通して、「幸せで豊かな人生」を想像する力を涵養し、地域に貢献できる「人財」を育成する	学校全体でキャリア教育に取り組む体制を整える。各学年のキャリア教育に関する行事において、進路部教員の指揮の下、学年主任のサポートを受けながら役割分担を明確にし運営する。	学校満足度アンケート結果において「とても思う・まあそう思う」が90%を超えている	A	B				
		インターンシップや総合的な探究の時間の活動を充実させ、進路情報の提供やコミュニケーション能力の向上、表現力の伸長を図る。		B					
		地元の福岡・朝倉・うきはを支える「人財」となるために地域社会の課題についてよく理解させ、体験的な学習を通して「地域創生」の精神を涵養する。		B					
図書研修	職員研修の充実	「主体的・対話的で深い学び」、「授業のねらい、目的に対する授業評価」、「ICT機器(1人1台タブレット端末)を活用した授業」を実践する相互授業参観週間を設定し、授業力向上や改善のための意見交流の場とする。	生成AIについてのアンケートにおいてよく理解できた 37% まあ理解できた 56%	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の研修では、いじめ防止基本方針や生成AIの利活用、本校で導入しているスタディサプリの活用法について行った。いじめ防止基本方針の確認では、本校におけるいじめの対処法をはじめ、いじめに対する職員の連携などをしっかりと共有することができた。本校ではスタディサプリアを導入しているが、生徒・教員の利用があまりなく、長期休業中の課題を中心としたものしか活用されていなかった。総合的な探究の時間に利用できる教材などもあるので、次年度以降はそれを利用して職員研修等で周知したい。</li> <li>・生成AIの利活用については、ICT支援員の方に研修をしていただいた。教員の中ではまだ生成AIを利用したことのない人も多く、生成AIに触れる良い機会になったと感じる。また、その研修の中で利用頻度が多い教員からも身近な実践事例を紹介してもらい有意義なものとなった。今年度は研修の計画が少し甘かったため、次年度は年度当初にしっかりと計画を立てたい。</li> </ul>		
		1人1台端末の有効な活用法について職員研修を実施し、職員で共有する。		A					
		各分掌と連携して、今現在の校内の問題点を解決できるような職員研修のテーマを設定し、充実を図る。		B					
	図書教育の充実	図書委員会を定例化し、読書への興味関心を喚起するような図書館だよりを発行するなど活動を活性化する。	学校満足度調査 図書館を利用したことがある 54% 学級文庫を利用したことがある 21% 朝の朗読について有意義と感じる 62%	B	B				
		学級文庫の活用を促し、読書への興味を喚起し、図書館利用を活性化する。		B					
		図書委員会による「朝の朗読」を通して、読書への興味を喚起する。		B					
保健環境	生徒の心身の健康管理と安全の保持	生徒の心身の不調の早期発見に努め、適切な対応を迅速にとる。	学校満足度調査 「先生に勉強以外のことを相談しやすい」とても思う・まあそう思う→84%	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の心身の不調の早期発見に努め、担任と密に連携し、必要に応じてSCやSSW等につなげた。フィードバックで知れた情報を確実に担任と共有するよう務めた。SC面談の延べ件数98件(令和7年度12月18日時点)のうち約11%がいじめアンケートの希望欄からつながっている。新規の面談者が毎回、平均2件ずつ繋がっており、昨年度よりも面談者数及び延べ件数が増加傾向にあり、いじめアンケートへのSC面談希望欄を設けたことは効果があった。課題として月に2回しかSCが来校しないため、迅速さには課題がある。次年度は、いじめアンケートをとった一週間以内にSCの日程を調整するまたは状況に応じてSSWへつなげるなどの工夫が必要だと感じた。</li> </ul>		
		SC・SSW、学級担任や関係職員、医療機関などと連携し、組織的に生徒の支援を行う。		A					
		保健環境委員会の生徒による啓発活動を通して、生徒の健康への関心を高め、自己管理しようとする態度を育成する。		B					
	教育環境の整備および生徒の美化意識の向上	学校満足度調査 「朝倉光陽高校の学校生活をもっと充実させるために、学校がどのように変わったらいいと思いますか。」において環境整備に関する言及なし。	A	A					

第1学年	基本的生活習慣の確立及び生徒理解	機を逃さず個別指導や学年集会を行い、「時を守り、場を清め、礼を正す」を基本に、集団のルールに対する規範意識を高め、基本的生活習慣が身につけられるように指導を行う。	学校満足度調査 「自分の良いところを伸ばすことができる・見つけられる」 とてもそう思う・まあそう思う→83%	B	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度は、「時を守り、場を清め、礼を正す」の基本姿勢を学年指導の中心に据え、集会や個別指導を通じて、生徒の規範意識と基本的生活習慣の定着を図った。結果として、時間やマナーに対する意識は概ね向上し、安定した学年運営に寄与した。また、地域ボランティア等への積極的な参加を通して、他者を思いやる心や社会性も育まれた。個人面談を通じて生徒の実態把握にも努め、関係づくりや支援の基盤を築くことができた。ただし、進路意識や時間管理といった主体的な行動面では課題が残った。今後は生徒が自ら考え、行動できるよう促す指導の工夫と継続的な支援が求められる。</li> </ul>
		SHRや学年集会など日々の指導や、進路指導をとおして、先を見とおし 主体的な行動がとれ、物や時間の自己管理ができる習慣を育成する。		A			
		定期的な個人面談等をとおして生徒の実態把握に努め、規範意識や他者への思いやりの心を育成する。		A			
第1学年	学習態度の育成及び基礎学力の向上	総合的な探究の時間を計画的に利用し、進路や類型選択について意識を高めて、生徒が主体的な判断・選択ができるように指導を行う。	学校満足度調査 「将来の進路に役立つ知識や技術を身につけることができる」とてもそう思う・まあそう思う→86%	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な探究の時間を活用し、進路や類型選択への意識を高める指導を行った。生徒の意識には一定の高まりが見られたが、活動の系統性や計画性には改善の余地があり、今後は年間を見通した指導の強化が必要である。</li> <li>・授業規律については、巡回指導を継続する中で「光陽スタンダード」の定着が進み、学習への集中や態度も安定してきた点は成果として評価できる。一方、成績不振者への対応は、初期段階での情報共有や支援が十分とは言えず、より早期から学年として働きかけができる体制づくりが課題となった。</li> </ul>
		定期的な巡回を行い、授業規律及び光陽スタンダードの徹底を図る。また、教科担当や学年団と連携し、早期に成績不振者への指導を行う。		A			
第1学年	保護者や中学校及びSC、SSW等との連携	日頃から電話連絡や面談等をとおして保護者との連携を図り、中学校やSC、SSWと情報共有し、生徒の個性や特性に適した指導に努める	学校満足度調査 「先生に勉強以外のことを相談しやすい」 とてもそう思う・まあそう思う→78%	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者との連絡や面談、中学校・SC・SSWとの情報共有を通じて、生徒の実態に即した支援を行うことができた。特に個別対応の場面では、関係機関との連携が機能し、適切な指導につながった。一方で、学年内での対応フローや情報共有の仕組みが不十分な場面もあり、今後は体制の整備が課題となる。</li> </ul>
第2学年	基本的生活習慣の確立及び自己有用感の涵養、他者を思いやる心の育成	機を逃さず個別指導や学年集会を行い、「時を守り、場を清め、礼を正す」を基本に、生活習慣が身につけられるように指導を行う。	学校満足度調査 自分の良いところを伸ばすことができる、見つけることができる。学校の雰囲気自分が合っている。 そう思う、まあそう思う→82%	B	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・光陽スタンダードをもとに各クラス、教室内の環境整備(整理整頓)に取り組むことができた。その反面、廊下のロッカー上などに私物等を置く生徒やトイレ等の共有スペースの乱雑な使用などが見られたため、環境整備を教室内外で徹底していけるよう指導していく。</li> <li>・出席の重要性や積極的なあいさつ、物や時間の管理等については、すべて修学旅行に関連付けて指導することを心がけた。実際に修学旅行では、旅行の経過とともに生徒たちの時間を守る気持ちや自ら進んでコミュニケーションをとろうとする意思が見られ、生徒たちの成長を実感することができた。しかし、修学旅行後に生徒たちの人間関係でのトラブル等も発生したため、担任、副担任を中心として個人面談等を定期実施していきたい。</li> </ul>
		SHRや学年集会など日々の指導、そして修学旅行をとおして、先を見通した行動がとれ、物や時間の自己管理ができる習慣を育成する。		A			
		定期的な個人面談や学年指導、そして修学旅行をとおして、学校や社会のルールを守り、マナーを身に付け、他者に対する思いやりの心を育てる。		A			
第2学年	進路に対する意識の向上と進路実現に必要な力の育成	総合的な探究の時間において、インターンシップやオープンキャンパスを計画し、その事前指導、事後指導にも力を入れる。また積極的な資格取得を促し、進路実現に向けた意識の高揚を図る。	学校満足度調査 進路に関する知識や技術を身につけることができる。 そう思う、まあそう思う→83%	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間をとおして、修学旅行に関する探究活動に多くの時間を割いた。事前指導(探究活動)→修学旅行の実施→事後指導(成果発表会)の流れをもとに、2学年で一丸となって指導にあたった。今後も継続して探究活動を行っていく中で、自分自身に関する進路についてもしっかりと考えていく態度を涵養させていきたい。</li> <li>・成績に関しては、1年次と比較して補講対象となる生徒が増加した。担任・副担任は、教科担当者と連携し、授業態度や提出物等の声掛けを行っていききたい。</li> </ul>
		定期的な巡回を行い、授業規律及び光陽スタンダードの徹底を図る。また教科担当や学年団と連携し成績不振者へ早期より個別指導を行う。		B			
第2学年	保護者やSC、SSW等と連携した生徒支援の実施	日頃の電話連絡や面談などをとおして保護者との連携を図る。またSC、SSW等と生徒情報を共有し、中途退学防止並びに生徒の心のケアに努める。	学校満足度調査 先生に勉強以外のことも相談できる そう思う、まあそう思う→77%	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期は各クラス、人間関係等でのトラブルも発生した。生徒たちのトラブルに対して、どのタイミングで教員が仲裁に入るのか、判断に悩む場面もあった。学年の教員だけで判断するのではなく、他学年の教員やSC、SSWとも素早く連携していく必要がある。また、何か問題が発生してから保護者に連絡するのではなく、未然防止につながる連絡等を積極的に行っていききたい。</li> </ul>

第3学年	社会人基礎力の定着と最上級生としての自覚を持たせる	進路実現を念頭に、挨拶、返事の励行。時間厳守の指導を徹底し、基本的な生活習慣の改善と社会人基礎力の定着を図る。	学校満足度 自分の良いところを伸ばすことができる・見つけられると思う・まあ思う88%	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事あるごとに話をし希望進路に向けて、情報提供を行い各生徒が、希望企業への合格を果たすことができた。早めの意識付けは今後も必要。</li> <li>・遅刻や欠席は、特定の生徒に限られるが、社会人として必要なことなので今後も指導を行い意識付けを行う。基本的な生活習慣については、改善した生徒もいるが、今後も声掛けや指導を継続する。</li> <li>・進路決定は行うことができたが、今後も先を見通した行動は、重要で目的を持って行動できるように今後も指導を行う。</li> <li>・提出物等の期限や管理についても、自己管理の習慣化は難しい生徒がいるので、今後も指導を続け意識付けを行う。</li> <li>・声掛けは、その都度行い社会人になるために意識させたが、今後も引き続き行い意識を持たせる。</li> <li>・体育祭では、特定の生徒ではあるがリーダーとして取り組んだ。班員も協力し共に成功させるべく取り組み姿勢が見られた。光陽祭でも各類型で取り組み姿が見られた。</li> </ul>
		SHRや学年集会など日々の指導、そして進路指導をとおして、先を見通した行動がとれ、物や時間の自己管理ができる習慣を育成する。		A			
		学校行事や部活動で中心的な役割を担うことで、学校のリーダーとしての自覚を育成し、最上級生として模範となる。		A			
進路希望の実現	進路指導部や類型等と連携して進路決定に必要な情報を提供するとともに、個別指導や面談等をとおして積極的な支援を行い、希望進路とのミスマッチを防ぐ。	進路指導部や類型等と連携して進路決定に必要な情報を提供するとともに、個別指導や面談等をとおして積極的な支援を行い、希望進路とのミスマッチを防ぐ。	学校満足度 進路指導が丁寧であると思う、まあ思う94%	A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・求人票を確認しながら企業の選択に取り組み、各自希望する企業を選択し内定を得ることができた。</li> <li>・進路部より多くの情報や面談等をとおして進路先を考えることができた。応募前見学も積極的に進路実現に取り組むことができた。</li> <li>・総探やHRを利用して各自で希望した企業や進学先に必要な情報を収集し、過去問等を参考に準備する事ができ、各自が希望進路につくことができた。</li> <li>・就職・進学指導を通して、学力向上には繋げることが難しかった。生徒達の意識は筆記試験等にやや薄かったため、簡単な問題等から取り組ませ意識付けを行う必要がある。</li> </ul>
		進路実現に向けて計画的に総合的な探究の時間等を展開するとともに、面接練習の記録簿を作成・活用することで、継続的・段階的な指導を行い、基礎学力の向上及び語彙力・表現力の育成を図る。		B			
保護者やSC、SSWや関連機関との連携	進路決定や問題行動防止のため、電話連絡や面談等をとおして家庭との連携を密にし、保護者の理解と協力を得る。養護教諭・SC・SSW等と情報を共有し、早期に対応し、生徒が安心・安全な学校生活を送れるようにする。	学校満足度 先生に勉強以外のことを相談しやすい75%	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題行動が発生した場合も学年を中心に指導やその後の見守りも行うことができ、大きな問題への発展はなかった。保護者との連絡も密に行い情報の共有は今後も行う。養護教諭やSC、SSWとの連絡で生徒の状況や状態を知ることができ、対応もできた。今後も情報共有を行い安心安全な生活ができるように対応してゆく必要はある。</li> </ul>	
食農科学科	進路実現を見据えた特色ある学習活動を展開し、勤労意欲の醸成を図るとともに、正しい職業観の育成を図る。	プロジェクト学習はじめ、ICTを活用した魅力ある農業教育とワンヘルス教育の推進と安全教育に努めるとともに、「農業電子図書館」を活用することで学習内容の改善・充実を図る。また、各種資格取得率(80%)を目指しキャリア教育の充実を推進する。	農業高校DX人材育成事業 「とても成果があった」60% 「やや成果があった」27%	B	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「農業と環境」「総合実習」「課題研究」等の授業において、ICTを活用してデータの集積や情報共有を行いプロジェクト学習に取り組んでいる。今年度より導入した農業電子図書館の活用が十分ではなかったため、確立した活用方法を模索する必要がある。また、農業DX人材育成事業やワンヘルス教育を活用して農業教育の充実を図る必要がある。</li> <li>・資格取得については、多くの生徒が上位級の取得を目指して授業に臨み、計画的に取り組むことができています。</li> <li>・農業クラブ活動では、県年次大会に向けて多くの生徒が意欲的に励み成果を残すことができた。継続して、クラブ員の学びや学習の励みになるように指導していきたい。また、執行役員を中心に農業クラブ活動を通して、リーダー育成やクラブ活動の活性化に努める必要がある。</li> </ul>
		農業クラブの活動をとおして、生徒の科学性・社会性・指導性を身につけさせ、農業に対する興味・関心を高めるとともに、農業の面白さ楽しさを理解させ、自己肯定感の醸成を図り、社会の一員として適正な資質や態度を身につけさせる。各種競技大会にて優秀賞(入賞)及び上位大会への出場を目指す。		A			
		「農業DX人材育成事業」等の事業を活用し、地域の関連施設への訪問や外部講師を招くことで専門性を深め、実践力や豊かな人間性を持った生徒を育成するとともに、働く意欲を養い、正しい職業観とマナーを身につけさせ進路実現に繋げる。		B			
地域共創の理念に基づき、学習成果を活かしながら、地域から愛され、信頼される人材の育成と魅力ある農業教育の実践。	地域社会(自治体・地元企業・農業経営者)と連携しながら、地域農業及び関連産業に貢献ができるグローバルな視点を持った生徒を育成する。地域に本学科の情報発信するツールの活用や販売会を実施して、効果的な生徒募集及び広報活動に力を入れる。	企業との交流がある(インターンシップやイベント) 「とても思う」34% 「まあ思う」51%	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材育成に取り組み、地域の人材や資源を活用して、教育活動を展開できた。朝倉市、森林組合、専門学校等と連携を図ることで、食品加工の専門技術の習得や地域資源の保全や活用方法を学んだ。今後も朝倉市、朝倉地域の産業を中心に連携を強め先進的な農業教育に力を入れていきたい。</li> <li>・販売会を中心に校外活動として、「ウォーターフェス」「つるフェス」「あさくら祭り」「新商品開発」などイベントに参加することで地域貢献や学習成果物のPRができた。また、体験授業及び出前授業等を通して、中学生に対して農業の魅力や取り組みに関する広報活動に努めた。今後も各類型の特色ある教育活動を展開、学校PRすることで、自己有用感や社会人基礎力の向上と職業観や社会的要請の醸成に繋げていきたい。</li> </ul>	
			地元農産物を使った商品開発に取り組み、地域に愛されるとともに、地域に活力を与える人材を育成し魅力ある農業教育を実践し、本学科の特色、特性を活かし、本校のブランドイメージを構築する。				A
			農場や地域資源を活用し経営コスト削減や労働環境の見直しと改善を図ることができる経営力を身につけさせ、地域農業の活性化と関連産業で活躍することができる人材を育成する。				B

地域共創	広報活動やボランティア活動の充実を図り、地域と連携しながら組織的に地域共創を実践する。	SNSや進路相談事業、オープンスクールを通して、各類型の特色や学習内容を広く地域に発信する。また、組織的な広報活動の充実を図る。	学校満足度調査 地域との交流がある「とても思う」31%「まあ思う」52% 校外でのボランティア活動や地域での活動「とても思う」29%「まあ思う」59%	A	A	A	・SNSや地域広報誌を活用した迅速な情報発信により生徒の活躍を広く周知できたが、今後は全教職員の広報意識をさらに高める取り組みが必要である。 ・検討会を経て実施したオープンスクールに、新規中学校を含む多数の中学生・保護者の参加を得ることができたが、実施時期や内容については今期の記録を次年度の改善に繋げる必要がある。 ・一部の職員に偏っていた中学校訪問や説明会の対応体制を再整備し、組織的な運用を目指す。また、地域交流やボランティア活動(延べ633名参加)が大幅に活性化していることから、増大する活動量に合わせた推進組織の見直しを図り、教育活動のさらなる充実を進めていく。		
		中学校との連携を図り、情報交換を積極的に行う。		B					
		地域と連携し、ボランティア活動や学習活動を充実させ、地域共創を実践する。		A					
特別支援教育	支援が必要な生徒に対して適切な対応を検討し、進路実現と自立に向けた支援を行う。	対象生徒の個別の教育支援計画及び指導計画を作成し、組織的かつ計画的な支援を行う。	中学時代に支援学級に在籍していた生徒の割合が1年生18名(18.6%)、2年生が19名(16.5%)、3年生が13名(14.6%)いる。この中で通級につながっているのが5名(10%)。本人の困り感や教員側が必要を感じてSCIにつながっているのが19名(38%)。	A	B	B	・特別支援教育委員会を1学期にしか開催できなかった。1年生の通級指導の申請が7月末であるため、通級指導が必要と考えられる生徒の選定や保護者への提案をなるべく早めに行うことができるよう、委員会の中で検討していきたい。また、定期考査において配慮が必要な生徒の確認等も行っていきたい。 ・支援が必要である生徒においては、進路指導部やSSWなどと早期に連携を図り、進路実現につなげたい。		
		特別支援教育委員会を開催し、対象生徒の情報共有や支援内容の検討を行い、組織的な支援と指導につなげる。		B					
		進路指導部との連携を図り、個の特性に応じた進路実現と自立に向けた支援と指導を行う。		B					
人権・同和教育	人権・同和教育推進体制を確立し、生徒が多様性を尊重し、互いを理解し合えるような人権意識の高揚を図る。	毎学期に学年単位で人権・同和特設授業を行うことにより、生徒の人権意識の高揚を図り、生徒が安心して学校生活を送れる環境作りに努める。	各学期1回の特設を実施した。学年で事前の学習会を2度行い、生徒の人権に対する意識の高揚を図った。	A	A	A	・年間をとおして生徒の人権意識の高揚や、生徒が安心して学校生活を送れるように努めてきた。家計の急変、学力の保障などさまざまな教育の課題があり、生徒一人一人人権を確立できるように、一層学年や分掌と連携していきたい。		
		学年や分掌と連携し、人権・同和教育関係の各種研修会、学習会に積極的に参加することによって職員の人権感覚を磨き、教育活動の充実を図る。		A					
	生徒の実態を把握し、関係機関・分掌と連携しながら修学支援、進路保障の取り組みを進める。	中学校、関係諸機関、SSW、SC、訪問相談員と連携を図り、課題を有する生徒の情報収集と支援を進める。	いじめアンケート・学校生活アンケートを実施した。アンケートをとおして訴えてくる生徒に対し(5件)、担任が聞き取り学年で共有し解決することができた。	B	B	A	・中学校や関係機関と密に連携することはできた。次年度は、課題を持っている生徒の支援がもっと積極的に支援していきたい。 ・「全国高等学校統一用紙」が改訂され初年度であり、性別の欄などいくつかの課題も見えてきたので、いろんな学習会をとおして課題解決に取り組みたい。		
		生徒へのアンケート調査を実施し、いじめ対策教育相談委員会や生徒情報交換会をとおして、全職員での生徒情報の共有化と迅速な対応に努める。		A					
		不適正選考を排し、「申合せ」違反等については、担任や進路指導部、ハローワークとの連携を図り、進路保障の取り組みを進める。		B					
	事務	学校経営目標の実現のため、効果的な事務処理を行う。	学校経営に積極的に参画し、各分掌と情報共有を図りながら、効果的な予算執行と事務処理を行う。	生徒の要望に上がったウォシュレットの設置については、本年度県の事業により洋式トイレに温水洗浄便座を設置した。次年度以降も設置数を増やして行きたい。	A	A	A	・限られた予算の中で、効率的な予算の執行と適切な事務処理ができた。 ・生徒、保護者への情報提供はできたと思うが、事務室からの積極的な情報発信という点では今後の課題であると思う。 ・校内の安全確保のため、環境整備班とも連携して効果的な対応ができたと思う。今後とも生徒の安全面を第一に考えた施設の充実に努めていきたい。	
生徒・保護者に対し、丁寧でわかりやすい情報提供を的確に行う。			B						
職員と協力し、効果的な校舎構築工事を行うとともに、校内の安全確保に努める。			A						